

すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 27 年 7 月 15 日 (水) 午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分
○場 所	武蔵野市役所 8 1 1 会議室
○出席委員	榎田委員、吉田委員、藤野委員、松田委員、大杉委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

1 開会

事務局より資料確認

2 子ども家庭部長あいさつ

3 委員自己紹介

4 事務局紹介

5 議事

(1) 委員長・副委員長選出

委員の互選により、榎田委員が委員長に選出された。

委員長の指名により、吉田委員が副委員長に選出された。

(2) 委員会の運営について

<事務局より、当日配布資料 1「すくすく泉事業採択・評価委員会について」、資料 2「すくすく泉事業採択・評価委員会進行表」を説明>

(3) 概要説明

<事務局より、事業概要等について説明>

※NPO法人いずみの会が入場

(4) 運営団体による概要説明及び質疑応答

<平成 26 年度の実施状況、平成 27 年度の事業計画について概要説明>

【いずみの会】

昨年 7 月に開設し、市民で構成する団体としてすべてを理解して進めることが難しい中、1 年間事業を実施してきた。プロポーザルで運営事業者に決まったのは、地域で子育て支援を推進する目的で決定されたと思っている。その後の法律の動きに対応しながら、保育事業もひろば事業もしっかりやらなければいけないとの思いで頑張ってきた。狭い施設なので、施設を半分ずつ使用してきたが、ひろば事業と一緒に一時預かりを実施する中で様々な問題点があり、不慣れな点もあったが、それなりに目指してきた地域で子育て支援を推

進する形ができつつある。

27年度については、より充実させるためにも地域というものをしっかりとらえて、子どもの安全を図ることはもとより、スタッフの質を高めていく必要がある。すくすく泉には地域の様々な方が関わってくれているが、友達同士の遊び場にならないようにも、指導や研修を充実させていく。一時預かりについては条件が異なる利用者それぞれに合った形で進めていく。全てが専門スタッフで構成されておらず、常勤スタッフもいない状況なので、今後の人的なつながりも考えて、施設の運営を充実させていく。

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

【委員長】

これより質疑応答に移ります。事前に各委員からいただいた質問は、当日配布資料2でまとまっているので、この順番に進めます。まず、「(1) 事業の実績」、「(2) 事業の効果」に関する質問に対して、簡潔にお答えください。

【いずみの会】

(当日配布資料2「事前質問一覧」に沿って回答)

(1) 子育てひろば①について、交流の場として通常のひろばで親同士・スタッフとの交流を実施している。相談はひろば内で日々の相談の他、保育士のボランティアスタッフによる定期的な相談を行っている。情報発信として、掲示板、チラシ配布、ホームページを活用している。講習は月2回のベビーマッサージ、2か月に1回の食事相談を実施している。

②について、利用人数にばらつきはあるものの、利用制限は行っていない。

③について、泉文庫に図書館機能はなく、司書の常駐はしていない。

④について、事業開始1年目なので、ひろばの安全性のためにも多くの方を対象にボランティアを募っている状態ではない。施設に積極的に関わろうとしてくれている方がスタッフとして入ったが、ボランティア感覚で働いてくれている方が多い状態。

(1) 一時預かり事業①について、1歳が約半数を占め、2歳が約4分の1、0歳・4歳が10%程度、小学生が2%程度となっている。

②について、一番利用者が多い時間は10時～16時となっており、通常預かり時間の8時半～17時半の時間内に収まっている利用者が多い。早朝・夜間の時間帯は毎月数件利用がある状態。宿泊はこれまで問い合わせはあったが、予約はなかった。8月に初めての予約が入った。

③について、子育てひろばの中で預かるので、大人1人に対して複数の子どもを見るのが難しい。年齢もばらばらなので1対1の対応をしている。預かり中は子どもの親代わりになって、ひろばで過ごしている。ひろばを利用する保護者は預かりの様子もわかるので、ひろばを利用した方が一時預かりに登録するケースが多い。

(1) グループ保育事業①について、市から報告は求められなかったもので、今回の資料に入っていない。

②について、スタッフが閉めた玄関ドアの隙間に子どもの指を挟んだ事故が1件あった。

その場で応急処置し、スタッフへの指導、ドアの工事も行った。

③について、保育士1人以上配置するべきであったが、開設当初はシフトに保育士がいない状態もあり、シフト外で保育士が施設内にいることもあった。シフトの組み方を変えて常時保育士を配置するようにした。スタッフは家庭的保育の基礎研修を受講しているので、半数以上が基準保育士という基準は満たしている。

④について、ルールや保育方針を入所前に伝えている。トラブルになる前に保護者同士が知り合う仕組みを作っている。日々のやりとり、連絡ノート、保護者会、「いずみのおうちだより」などで、必要だと思われることを保護者に伝えている。なんでも相談し、話しやすい雰囲気を作り、保護者が安心して働けるように関係性を作っている。

⑤について、協力的な家庭が多く、特別難しいことはない。

(1)共通の①について、社会保険対象となるスタッフが2名程度在籍する想定であったが、対象者がいなかった。雇用保険の対象となるスタッフは1名いたが、法人の理事なので雇用保険に馴染まないことから加入しなかった。26年度は労災保険だけ法人の負担となった。

②について、当初は研修もしっかり実施していく予定であったが、現場の人員確保に追われたこともあり、思うように研修を実施できなかった。今年度は研修にも力を入れるべく、研修費を計上した。一方で、施設開設前にスタッフとして働くにあたっての準備にかかる人件費は市の予算で認められなかった。今年度は研修費等も法人で負担していく。

③について、賠償責任保険は入っているが、スタッフの傷害保険は入っていない状態。ひろば事業に関する傷害保険については保険会社と相談中である。

④について、会計・人事等の事務仕事を担当するスタッフの雇用を検討してきたが、人材を確保できていない。現在は役員がボランティアで事務仕事を行っているので、26年度は予算がかからなかった。今年度中には人材を確保したい。

(2)子育てひろば①について、目に見えて楽しく子育てしている様子が窺える。利用者同士の助け合いも見られる。

②について、16時で閉まるのは早いと思われがちだが、その後は隣接する公園で遊ぶことができるので、親子同士が公園で遊ぶ風景も見られる。人員については問題ない。

③について、小学生や高齢者が公園にいることが多いので、顔見知りになるなど、交流が生まれつつある。ひろばに小学生が来てくれることもある。

(2)一時預かり①について、就労目的やレスパイトケアのような利用が多い。母親にしか懐かない傾向にあった子どもが一時預かりを利用した結果、母親のリフレッシュだけでなく、他の家族との関係性も良くなったケースや下の子どもを預ける間に上の子を図書館に連れて行くことができ、きょうだい関係に落ち着きが出てきたという話もあった。

(2)グループ保育事業①について、ひろば利用者の質問に答えることや、ひろば来所者が保育の様子を見学することもできる。同じ保育として、グループ保育と一時預かりのスタッフ間の交流も行っている。一時預かり中のケガなどにも保育士がすぐ隣にいたため、迅速に対応できた。

【委員長】

補足して質問したい委員はいらっしゃいますか。

【副委員長】

グループ保育事業において、保育士1人を施設に常時配置するようにしているとの事だが、要綱では6割以上の有資格者が必要となっている。有資格者は6割以上いたのか。

【いずみの会】

6割以上の有資格者がおらず、基準から外れている時間帯もあった。(現在は基準を満たしている)

【委員長】

次に、「(3) 事業の継続性」、「(4) 事業の発展性」、「(5) 事業の安定性」に関する質問に対して、簡潔にお答えください。

【いずみの会】

(3)子育てひろば①について、ボランティアの保育士の方が月に数回、スタッフのようにひろばに入って相談を受け付けている。保育士の方はスタッフの相談にも乗ってくれている。質問事項を交換ノートでやり取りすることもある。

②について、地域の繋がりで様々な方が働く中で、スタッフの研修についてコアスタッフで考え、拠点に求められていること、支援者のあり方、守秘義務をどう伝えていくか等を検討している。

③について、常駐の職員はおらず、27年度も配置しない予定。3～4名の核となる職員の誰かが常時いるようにしている。27年度は核となる人材を増やしていきながら研修も充実させて運営していきたい。

(3) 一時預かり①について、スタッフの確保は地域の繋がりから確保している状態。研修は家庭的保育の基礎研修や所内での実習を受けてもらうようにしている。また、マニュアルの配布やミーティング内容等のメール配信により情報共有している。

②、③について、早朝、夜間、土曜日は勤務できるスタッフが少なく、グループ保育事業から応援に来てもらうなど、工夫をしながらカバーしている。

(3)グループ保育事業について、コアスタッフの週1回のミーティングで話し合い、月1回の全体ミーティングで全スタッフに共有し、保育計画を作成している。

②について、昨年8月の保育事業開始時、0歳児が7名入所し、そのまま今年度持ち上がったため、1歳児が多くなっている。今年度、0歳児を入れようと思っていたが、市の基準に沿って選考した結果、このような結果となっている。

(4)子育てひろば①について、ボランティアで関わってくれている保育士の方は楽しみながら関わりたいという希望がある。その他の専門性のある方に入っていただく予定はないが、今後関わってくれる方がいたらお願いすることもある。

②について、公園での安全性までは確保できないことから、今後イベントで利用する際に関わっていくことになる。その他は、親子自身で公園に出たり入ったり、楽しく遊ぶことを自然にお手伝いしている。

③について、利用者の希望を聞きながら、サークル活動等ができればと思っていたが、ひろば事業を行いながらではなかなかできない現状。利用者の声を聴きながらイベントを実施することが利用者参加型のイメージであると想定している。

④ひろばスタッフが相談を受けつつ、栄養士や保育士の先生方に質問して進めている。

子ども家庭支援センターとの連携もしている。

(4)一時預かり①について、事務作業を行ったり、ひろばの手伝いをしてもらうこともある。

②について、手薄な時間帯のスタッフの確保が課題となっているが、質・安全性の確保も同時に進めている。人材も少しずつ確保してきており、全体のスキルアップも図っている。

(4)グループ保育①について、今年度資格取得予定者が1名、保育士を2名採用する予定である。基準保育士とは東京都の家庭的保育基礎研修を受講した保育者の事を指している。

②について、採用するのはもちろんのことながら、働きながら保育士資格取得を目指しているスタッフもいる。

③他の園への転園児やひろば・一時預かりで縁ができた方を含めて、地域の方がつながれるようなイベントとしてコンサートを開催する予定。また、近隣にある「まちの保育園 吉祥寺」への見学実習や公園での保育の仕方も一緒に考えている。新制度上の連携園である北町保育園との連携も今後スタートしていく。

(5)子育てひろば①について、日報には事務連絡だけでなくひろばの様子やその日の対応などを記している。その他、共有すべき留意事項などについてはコアスタッフ間のメールで配信し、情報共有している。メインスタッフは3～4名なので、体制が増えた際には情報共有の方法を考えていく。ひろばスタッフ全体のミーティングは月に1回行っているが、引継ぎをこまめに行い、申し送りに対応している。

(5)一時預かり①について、ヒヤリハットの記録方法としては、ファイルを用意し、いつでもスタッフが記入でき、閲覧できる状態にし、経験を皆で共有する方法としている。緊急で皆に知らせる必要がある際はメール配信を行っている。

(5)グループ保育①について、常勤保育士を増やす予定である。

②について、シフト組は責任者以外の2名で作成後、責任者が確認している。その他の書類作成、会計、給食献立作成は責任者が行っている。

【委員長】

補足して質問したい委員はいらっしゃいますか。

【委員】

小規模保育事業（B型）への移行の見通しはいかがか。

個人情報の取り扱い方法をどのように共有しているのか。

【いずみの会】

2名保育士を採用できれば移行できる状態となっている。現段階では移行できる見通しが立っている。

グループ保育では採用の際に個人情報の取り扱いを説明している。書類関係は厳重に管理している。

一時預かりでは、毎月のミーティングで具体的な事例をあげて、個人情報の取扱いを考えている。メインスタッフとその他のスタッフで知っている情報を分けている。

子育てひろばでは、イベント申込みの際に聞いた個人情報の管理を徹底している。ひろ

ばの中で受けた相談はスタッフと利用者との信頼関係で聞くこともある。その内容を責任者は全て把握しているので、他のスタッフへの共有は責任者が決定している。

【委員】

ひろば事業で相談を受けた際に要保護児童対策地域協議会や市の関係機関等と関わる方法はマニュアル等で整備されているのか。

【いずみの会】

マニュアル等はないが、子ども家庭支援センター等とやり取りをしたケースは数件ある。

【委員】

ひろばで相談する際に、ボランティアスタッフが相談を受けることもあるのか。

【いずみの会】

保育士・栄養士のボランティアスタッフが相談を受けることはあるが、重い内容の相談はスタッフが受けることが多い。

【委員】

研修計画について、外部機関の研修を受講する計画はあるのか。

【いずみの会】

東京都から来ている研修案内はスタッフが順番に受講している。

【委員長】

次に、「(6) 補助団体の継続性」、「(7) 補助団体の安定性」に関する質問に対して、簡潔にお答えください。

【いずみの会】

(6)①について、保育士は現在6人で、今後1名採用予定でいる。

②、③について、26年度は開設準備経費を多めに見込んでいたが、地域の方からの寄付等で備品費が大幅に削減できた。一時預かりは秋頃まで利用者が少なく、スタッフも当初は少なかったため人件費が抑えられた。社会保険対象のスタッフがいなかった等の要因により26年度は返還金が生じている。27年度はグループ保育事業で保育士を採用したり、一時預かり事業の利用増加に伴い、スタッフを増やす必要があることから、人件費を増やしている。

④について、理事会は月に1回行っている。理事が現場のスタッフとして5名入っている。他の理事は手伝いとして何らかの形で関わっている。

(7)①について、当初の人選の際に常勤という形態で働ける人材は法人内にいなかったため、非常勤の施設長を配置した。非常勤ではあるが、それに準ずる形で施設にできる限り通うようにしている。

②について、現在組織の見直しをしているところで、保育の施設長は有資格者であることが求められることから、現在のグループ保育責任者が保育室の施設長となる想定である。この件は理事会の承認を経たからの決定する。グループ保育の責任者として、肩書きをどうするかも含めて検討している。グループ保育とひろば、それぞれで責任体制を確立するよう進めている。

③について、グループ保育についてはスタッフを固定している。ひろばと一時預かりは同じ場所で行っていることから、両方を見ることが出来る人材を育てていけるよう進めて

いる。

④について、利用者からは施設が狭いという声は上がっているが、今のところその他のニーズを聞いておらず、把握していない。

⑤について、地域の人材で運営を行っている上で、必要な人材を確保することは可能であると思っている。

⑥について、法人としてすすく泉事業以外での収入はない。一方でNPO法人として地域住民を交えた活動を行っていくことは検討している。また隣接するすすく泉公園の緑ボランティアにも法人の理事が在籍しており、一緒に公園を利用することを考えているので、共催事業を展開していきたい。

【委員長】

補足して質問したい委員はいらっしゃいますか。

【委員】

組織上の課題はどんなことがあると認識していて、どのように対応しているのか。

【いずみの会】

組織の存続、継続性を考えなければいけない。理事としては立ち上げの際の意識を大切にしていかなければいけないと考えている。地域には様々な考えの方がいるので、立ち上げた時の思いをいかに理解してもらうかが大事であると思う。組織が破綻するときには金銭の問題が絡んでくる。スタッフが均等に働けて、ボランティア精神を持ちながら関わっていただける方が中心の組織になっていければと考えている。内部で考え方の違いが出てきているが、しっかり話し合っって対応していきたいと考えている。

【委員】

今後は現在のスタッフ以外で運営するということか。

【いずみの会】

理事として運営母体に在籍しながら、後を継ぐ人材を育てていかなければいけないという意識を持つということであって、現在の人材が辞めるということではない。

【委員長】

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はここでご退場ください。

※NPO法人いずみの会が退場

(5) 審議

【委員長】

つづきまして、議事の5「審議」に移ります。

ここでは、「補助事業が適切に実施されたか否か」、「平成27年度事業計画に対して、必要な意見を付すべきか否か」、皆さまのご意見をいただきたいと思ひます。いかがでしょうか。

【副委員長】

グループ保育の運営体制が要綱の基準に沿っていない点が気になる。施設長が現在誰なのかははっきりしていない。施設長が有資格者であるのか、保育者のうち6割以上が有資格

者なのか、常時保育士1名が配置されていたのか、スタッフの確保も大変だが疑問点が残る。

【委員】

グループ保育事業に対する法人のバックアップが足りないと感じた。日々の保育を行いながら体制整備するのは難しい。理事会・法人の体制に問題があるのではないか。内部でパワーバランスがあるのか。理事で社会保険に入れないということも疑問である。見学時の保育現場の様子はとても良かった。

子育てひろばは1年目ということもあるが、他のひろばの見学や研修の受講によるスキル向上、ひろば保険の加入などによる環境整備にも努めていくべき。今までの子育て感覚でひろばを運営しているように感じた。専門性をもった方にボランティアを依頼しているが、その前にひろばとしての専門性を高めていく必要があり、地域子育て支援拠点事業そのものをレベルアップさせることにエネルギーを注いでいく必要がある。

【委員】

グループ保育の専門性が心配である。地域のボランティア精神にこだわりすぎて、職員の常駐体制が取れない状況で1年続いていることに不安がある。ボランティアという形で関わる方が多いということは、責任は取らない軽い関わりの方が多くということ、シフトを回せるほどの人員が整っていないことの裏返しである。組織全体で子どもを預かること、保育料をいただく事業であることへの責任と専門性を考え、法人としてバックアップ体制を整備して組織づくりを進めなければいけない。

【委員】

保育士の確保が明らかにできていないと感じた。相談事業を行うには人手が必要であるので、職員の専門性について積極的に考えなければいけないと感じた。

【委員長】

全体的に専門性が低いと感じた。ひろば事業の個人情報の取り扱いについても厳格化すべきである。「利用者参加型」とは「イベントへの参加」という意味ではないと思うので、理解度が低い。ひろば事業の持つ意義への理解、グループ保育の安定性、専門スタッフの配置、一時預かりも同様で、様々な課題を感じた。

またグループ保育において施設長、職員配置の問題点があった。それは法人全体が抱える問題である。27年度に向けては法人全体の体制、専門性、人員の確保を強力的に整備すべきである。

【委員】

事業者選定の際も僅差であった。補助事業で全て任せただけでなく、市のバックアップが必要である。市が具体的な部分までバックアップし、一緒に進めていかないと難しいと思われる。法人は現場で必死に運営していると思うので、委員会の指摘をするだけではモチベーションを下げってしまう。市が上手に関わっていけるかも課題だと思う。

【委員長】

これまで市の関与はどのように行ってきたのか。

【事務局】

月に1回法人との定例会があり、担当者が出席している。理事会で挙げた問題点やス

スタッフの配置等の状況を把握しながら適宜指導してきている。法人内部の人事など、関われない部分もあるが、事業内容については関与しながら進めてきている。それぞれの事業に対する考え方が内部で異なることもあるので、人員確保の考え方や委員会の指摘事項も併せて一緒に考えて進めていきたい。

保育に関しては、東京都の監査だけでなく、市の保育アドバイザーによる独自の監査も行い、成長していけるように寄り添ってサポートしてきた。本委員会でご指摘いただいた意見は市でも課題として捉えている。27年度に新制度の小規模保育事業に移行できなかったことを重く受け止めており、1年間かけて指導を行ってきた。スタッフに対しては小規模保育事業者向けの研修や地域型保育事業の施設長会議にも出席いただき、他の認可事業者と同様の情報を提供している。

【委員長】

「地域」へのこだわりがネックになっているように感じた。地域の良さを大切にしながら、専門性・専門職の確保は急務であると思うが、その点についてはいかがでしょうか。

【委員】

元々コミセンを基盤にして子育て支援をスタートしている。幼児に限らず学童期の子どもも含めて地域で見なければという声が多くあるので、すすく泉のような地域基盤の形態で立ち上がって、事業化することへの橋渡しになるのではないかと思って見守っている。

今後、武蔵野市は地域主体の事業が増えていくと思うが、そこに関わるボランティアの活用方法が課題であると思う。無償であるが故のバランスの悪さがあるので、他の地域事業にも共通することだが、ある程度の道筋を立てていくことも必要ではないか。

【委員】

NPO法人の事業運営を勉強しても良い。介護保険導入時のプロセスなど、他の分野でも参考になる例があると思う。

【委員長】

皆様の意見も出尽くしたようですので、委員会としての意見をまとめたいと思います。

平成26年度補助事業は、おおむね適切に実施されたが、一部規程を順守していないところが認められた。平成27年度の事業実施にあたっては、下記事項について改善していただきたい。

- ① 法人全体でそれぞれの事業が適切に実施されるよう、組織体制を確立すること。また、すべての事業を統括する常勤施設長の配置を検討すること。
- ② グループ保育事業については、武蔵野市グループ保育事業運営要綱が定める基準を満たすこと。特に、グループ保育事業の施設長を明確にし、保育者の配置基準を順守すること。また、法人全体の課題として保育士の確保に取り組み、小規模保育事業へ確実に移行すること。
- ③ ひろば事業をはじめ各事業において、地域の力を活かしながらも、専門性、専門職を確保すること。また、外部の専門研修等へ積極的に参加し、専門性の向上に努めること。
- ④ 事業の実施において、市と連携し、改善点の指摘があった場合には速やかに検討すること。

6 閉会